

和泉を歩こう!
松尾・横山エリア



和泉こがね



松尾・横山エリアは
こんなところ

このマップでは、和泉市西部を流れる松尾川流域の松尾エリアと、横山谷および横尾山周辺の横山エリアを取り上げます。

この2エリアを代表するのが、松尾寺と施福寺のふたつの山寺です。ふたつの山寺はいずれも修行の地として開かれたもので、中世にもっとも栄えました。織田信長による破壊と豊臣秀頼(とよとみひでより)による再興を経て、江戸時代以降も存続し、現在も市内外から参拝者が訪れています。

ふたつの山寺以外にも、和泉市最古の仏像がある観福寺や、式内社(しきないしゃ)の男乃宇刀(おのうと)神社などの寺社、そして国宝・重要文化財をはじめとするたくさんの美術品を所蔵する久保惣記念美術館など、見どころがたくさんあります。

② 和泉市久保惣記念美術館
いずみしくぼそうきねんびじゅつかん



和泉市久保惣記念美術館

1982(昭和57)年に設立された美術館です。設立にあたっては、明治以来、100年にわたり市内で絹織物業を営んできた久保惣株式会社及び久保家から、美術品500点、美術館施設および土地、運営のための基金が寄贈されました。

国宝2点、重要文化財29点をふくむ11,000点にもおよぶ美術品を所蔵しています。日本や中国を中心とする書画や陶磁器、金属器などの東洋美術品だけでなく、モネやルノワールといった西洋美術品や浮世絵コレクションもあり、年間を通じて様々なテーマで展覧会が開かれています。

また、四季折々の草花に彩られた庭園も見ごたえがあ

① 和泉市いずみの国歴史館

いずみしいずみのくにれきしかん

桃山学院大学のとなりにある宮ノ上公園の中に、まなびのプラザという建物があります。その中にある資料館がいずみの国歴史館です。

岩宿(いわじゅく/旧石器)時代から現代まで、和泉の歴史を紹介しています。発掘調査で見つかった玉や土器、古いお寺の瓦、江戸時代の古文書や刀、和泉市が誕生したときの役所の資料などを展示して、人びとの暮らしをひも解きます。

また、和泉に関するさまざまなテーマで特別展や企画展も開催しています。そのほかにも、講演会や体験教室などのイベントも行っています。

和泉市いずみの国歴史館

- 所在地 和泉市まなび野2-4
- お問合せ(電話・ファックス)0725-53-0802
- 開館時間 午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土日は開館)、
年末年始、展示入れ替え期間(不定期)
- 入館料 無料(特別展は有料の場合あり)



ります。庭園内には1937(昭和12)年に建てられた茶室があります。この茶室は、二代目の久保惣太郎氏が建てたもので、優れた和風建築であると評価され、国の登録有形文化財になりました。

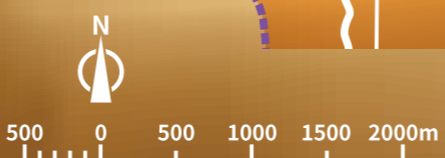
和泉市久保惣記念美術館

- 所在地 和泉市内田町3丁目6-12
- お問合せ(電話)0725-54-0001
(ファックス)0725-54-1885
- 開館時間 午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土日は開館)、
年末年始、展示入れ替え期間(不定期)
- 入館料 有料(展示により異なる)



青磁 鳳凰耳花生 銘万声(国宝)

松尾・横山エリアマップ



和泉を歩こう! 松尾・横山
エリア
和泉市の
歴史と文化財
マップ



施福寺参道
塔頭の合間を縫うように坂道と石段が続いています。
西国三十三所霊場最大の難所。

弥生時代の歴史が眠る街
和泉市の文化財ウェブサイト



ウェブサイトアドレス <https://izbun.jp/>

発行：和泉市文化財活性化推進実行委員会
発行日：2019年3月31日

③ 槇尾山施福寺 槇尾山町 まきおさんせふくじ

和泉と河内(かわち)・紀伊(きい)の境をなす和泉山脈の槇尾山にある寺院で、西国三十三所観音霊場(さいごくさんじゅうさんしょ かののんれいじょう)の第四番札所として、たくさんの方参拝者を迎えています。西国三十三所は、現在の近畿2府4県と岐阜県にある33ヶ所の観音さまをおまつりしたお寺(霊場)のことです。人びとはこの33の霊場を順番にお参りします。

もともとは、お坊さんの修行の場として開かれ、唐(とう)への留学を終えた空海(くうかい)が、高野山を開く前に一時滞在したこともあります。



施福寺山門



施福寺本堂

最も栄えたころは、お寺の領地が2万石あり、1000に近いお堂が建ち並んでいたといわれていますが、織田信長軍により破壊されてしまいました。豊臣秀頼(とよとみひでより)により本堂が再建され、江戸時代に天台宗(てんだいしゅう)のお寺として復興したものの、江戸末期の火災によりほとんどの建物を失いました。

本堂は江戸末期の火災後に建て直されたもので、本尊の弥勒如来坐像(みろくによらいざそう)や第四番札所本尊の千手観音像のほか、秀頼が再興した時期に作られた市内最大の木造仏・方違(ほうちがひ)観音坐像など、たくさんのお仏像を見ることができます。

これらの仏さまを見るためには、谷を巡るように続く急な坂道と石段を登らなくてはなりませんが、全国から訪れる老若男女でにぎわっています。

⑥ 阿弥陀寺 大野町 あみだじ

安産祈願の「大野の阿弥陀さん」として知られ、四季を問わずたくさんの方がお参りにやってきました。

お寺のなりたちについては、次のような言い伝えが残っています。

奈良時代、東大寺を建てるのに活躍した行基(ぎょうき)というお坊さんがいました。彼は、聖武天皇(しょうむてんのう)のおきさきである光明皇后(こうみょうこうごう)が出産するときに、安産祈願のために37日の間、槇尾山にこもりました。行基がお祈りをしていると、桜の大木の上に阿弥陀さまが現れ、「無事に元気な赤ちゃんが生まれるでしょう」とお告げしました。そして、そのお告げのとおり、光明皇后は無事に出産することができました。行基はその桜の木で仏像を作って安置し、これがお寺のはじまりだと伝えられています。



阿弥陀寺

⑦ 男乃宇刀神社 仏並町 おのうとじんじや



男乃宇刀神社

『延喜式(えんぎしき)』という平安時代の史料に、「男乃宇刀神社二座」として記されています。この「二座」とは、兄弟を意味する男乃と宇刀のことで、横山谷の東西で一座ずつあったと考えられています。

江戸時代には、東横山谷の村々の牛頭天王社(ごずてんのうしや)が下宮(しものみや)村に、西横山谷の村々の牛頭天王社が仏並(ぶつなみ)村にあり、仏並の牛頭天王社の末社(付属の神社)として男乃神社があったようです。

明治時代になると国の政策によって、この2つの牛頭天王社が八坂神社(下宮)と男乃宇刀神社(仏並)に名称を替え、村々にあった神社が合祀(ごうし/複数の神さまを合わせておまつりすること)されました。

戦後、八坂神社は男乃宇刀神社に合祀され、跡地が横山高校(2008年閉校、現在は総合スポーツセンター)の敷地となりましたが、鳥居や記念碑が今も残されています。

④ 松尾寺 松尾寺町 まつおでら

松尾川支流の東松尾川に面した丘陵上にある古いお寺です。建てられた年代ははっきりしませんが、奈良時代までに創建されたと考えられています。

お寺の記録によると、役行者(えんのぎょうじゃ)という人がここで修行した際に、如意輪(にょいりん)観音像を造って納めたことに始まり、奈良時代に越前(今の福井県北部)の泰澄大師(たいちょうだいし)というお坊さんが諸堂を整えたとのこと。

鎌倉幕府、南朝方、室町幕府とそれぞれの時代の権力者の祈禱(きとう)所として栄え、多いときで寺の領地が7000石、お坊さんの住まいなどの建物が360を数えたとされています。しかし、天正9(1581)年、織田信長軍に



松尾寺本堂(府指定文化財)

⑧ 観福寺の弥勒菩薩坐像 春木町 かんぶくじのみろくぼさつざそう

観福寺は江戸時代の初めに創建された真言宗のお寺で、境内から見る松尾谷の風景は一見の価値があります。

このお寺に安置されている弥勒菩薩坐像(みろくぼさつざそう)は、若々しく伸びやかな体や柔らかに垂れる布が見事に表現された優美な仏像です。調査の結果、9世紀の早いころに制作されたもので、市内でもっとも古い仏像であることがわかりました。



弥勒菩薩坐像(市指定文化財)

この仏像は、もともと冬堂宗福寺(ふゆどうそうふくじ)という近くのお寺にあったものでしたが、明治時代に宗福寺が廃寺となったことで観福寺に移されたものです。市指定文化財として、今も大切に守られています。



絹本着色 孔雀経曼荼羅(国重要文化財)

によって破壊されてしまいました。

1602(慶長7)年、豊臣秀頼によって金堂(こんどう/本堂)が再興されました。金堂は四天王寺の建物を移したといわれ、府文化財に指定されています。江戸時代には上野寛永寺(うえのかんえいじ)の支配下の寺となって天台宗(てんだいしゅう)に改宗し、幕府から護られるようになりました。

府指定史跡の境内は豊かな花木に包まれ、毎年4月第1日曜日には桜まつりが開かれています。重要文化財の孔雀経曼荼羅(くじゃくきょうまんだら)、現存するもので最古といわれる役行者の画像や府下最古の真言八祖像(しんごんはっそう)など、多くの文化財が伝えられています。

また、境内にあるヤマモモ、松尾寺バス停留所横にあるクスも府天然記念物に指定されています。クスは推定樹齢700年以上、高さ38mもある市内最大の巨木です。

⑨ 春日神社 春木町 かすがじんじや



マキ(府指定天然記念物)

松尾エリア一帯の氏神(うじがみ)さまである春日神社は、1300年以上もの長い歴史をもっています。

もともとは唐国(からくに)町にありましたが、だんだんと松尾川の上流へ田畑の開墾が進んだことから、9世紀のころ、神社も春木町に移ったと考え

られています。また、明治のはじめまで、境内には、弘法大師が一冬こもったと伝えられる、医王山冬堂宗福寺(いおうざんふゆどうそうふくじ)もありました。

境内にある、マキとツバキは大阪府の天然記念物に指定されています。樹齢300年をこえるマキは、樹高およそ14mで、秋に付ける実は、男の子の無病息災(むびょうそくさい/病気をせず元気であること)に効き目があるといわれています。

⑤ 契沖ゆかりの地 久井町 けいちゅうゆかりのち ひさい

「国学の祖(こくがくのそ)」と呼ばれる契沖は、寛文9(1669)年、30歳のころに、辻森吉行という人物に招待され、和泉の久井村にやってきました。契沖は辻森家の持つたくさんの書物を読み、研究を行いました。5年ほど滞在したのち、万町村の伏屋家の屋敷に移り、そこでも研究に励みました。

契沖の研究は、その後の世代にも受け継がれ、国学という学問に発展します。国学とは、外国から仏教や儒教がもたらされる以前の日本人のころを明らかにしようとする学問で、幕末の尊王攘夷運動(そのんうじょういうんどう)にも影響を与えたといわれています。

久井町には、契沖ゆかりの井戸や歌碑があり、契沖がこの地で国学の基礎を築いたことがしのべられます。



歌碑(左)と石碑「阿闍梨契沖之遺跡」(右)

⑩ 若樫の桜 若樫町 わかかしのさくら



若樫の桜(府指定天然記念物)

松尾川支流の小さな谷にかかる坂見橋のそばに、樹齢100年と推定されるシダレザクラがあります。樹の高さは約8m、幹の太さは約2.2m、枝張り約15mという立派なシダレザクラです。

毎年3月下旬ごろ、谷に向かって長く垂れ下がった細枝に美しい花を咲かせます。

この樹は個人の方のものなので、見学の際は配慮しましょう。